

2012 年度活動計画

ごみゼロナビゲーションチーム

長期目標

私たち「ごみゼロナビゲーション」は、

- 1) 「個人」が身の周りの問題に無関心・無責任になることと、
- 2) 「社会のしくみ」が人々の対等な関係を拒み参加を受け入れないこと、

この2つが、社会の大きな問題だと考えています。「個人」と「社会のしくみ」という2つの問題が絡み合い「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。私たちは、「個人」が声を上げるようになり、「社会のしくみ」もその声を受け入れる「参加型社会」を目指して、双方を同時に変えていきます。具体的には、活動を通じて下記のように社会を変えていきます。

一人ひとりが、目の前の問題に気づき、自分で考え、選択し、問題解決に向け動き出せる様に意識を変えます。

使い捨てではない「リユース」、必要のないごみを出さない「リデュース」の取り組みが当たり前の社会に変えます。

短期目標

音楽フェスティバル・環境イベントを中心に、イベントをより環境負荷の低い参加型の場にしていきます。

イベント以外の音楽のある日常の場にリユースを広げるために、ライブハウスやクラブでリユースカップの使用を促します。

実行手段

年度内に20本以上のイベント(音楽イベント以外でも8本以上)で活動を実施します。

- ・13本以上のイベントで、来場者に対してごみと資源の分別を呼びかけ、自らの手で分別してもらいます。
- ・ごみと資源や買い物ツールとしたキャンペーンを10,000名以上のイベント来場者に実施します。
- ・ecoアクションキャンペーンでは、環境問題だけでなく社会問題に対する気づきの場を提供します。
- ・年度内に1,500名以上のボランティアとともに活動を実施します。
- ・上記のボランティアへの新規参加者を6割以上(900名)とする事で、個人が新たにボランティア活動に参加するきっかけを提供します。

年度内に8本以上のイベントにリユースカップ・食器を導入することを目指します。

- ・来場者へ「リサイクルよりリユースの方が環境に良い」事を呼びかけ、「使い捨てのライフスタイル」を変えます。
- ・イベント主催者が使い捨て容器をやめ、リユース食器を使い始めることで「社会のしくみ」を変えます。
- ・来場者にマイ食器の持参を呼びかけ、イベントでごみを出さない参加者を増やしていきます。
- ・ap bank fesにおいて1日1,000人を目標に来場者が自ら食器を洗う「カップじゃぶじゃぶキャンペーン」に挑戦します。

より多くの若者へ環境問題に対する気づきを提供する為に、社会派アーティストの開拓を行います。

- ・いままでに掲載のなかった、社会派アーティスト1名以上との対談を行いWEBサイトやA SEED JAPAN ニュースレター「種まき」に掲載します。

LIVE ECO

- ・ライブハウスやクラブ230店舗以上、それ以外の分野も含めて350ヶ所にリユースカップを導入します。
- ・全都道府県にリユースカップを導入します。

ごみゼロナビゲーションの3年、5年先を見据えたビジョンを描く

- ・ごみゼロナビゲーションやA SEED JAPANのOG・OBなどにも呼びかけ、年に2回ミーティングの場を持ち、議論を重ねていきます。

エコ貯金プロジェクト

長期目標

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

短期目標

- ・提言：公開アンケートを金融機関（メガバンク、主要地方銀行等）に送付し、フェアで公正な社会づくりに向けた金融機関側の取り組みを促進します。
- ・啓発：エコ貯金宣言に代わる新たな啓発手段を開発し、エコ貯金の考え方をより多くの市民に広めます。
- ・対話：金融機関と市民が情報を交換できるよう、対話の場を設けます。

実行手段

- ・4月：アースデイ東京 2012 にブースを出展します。
- ・9月：金融機関に公開アンケートを送付します。
- ・11月：海外から登壇者を招き、国際フォーラムを開催します。
- ・12月：エコプロダクツ 2012 にブースを出展します。

つながりの森を未来へプロジェクト

長期目標

豊かな森林を未来世代へとつなぐため、森林の管理と利用をその地域の生物多様性や森林とつながりのある人々にとって持続可能なしくみとします。

短期目標

- ・未来を担う若者を森林破壊の起こっている現場とつなぎます。
- ・自分たちの生活とつながる森林問題の解決に向け、共に活動する青年を育成します。
- ・消費者と直接つながりのある木材や植物油脂の加工・販売を行う国内企業のうち、売上高上位各 3 社（計 6 社）の資源調達方針を明らかにします。

実行手段

- ・自分たちの生活とつながる森林問題の現場を知る海外ワークキャンプを企画・運営します。
- ・海外ワークキャンプの報告会や勉強会・セミナーを開催し、青年に広く普及啓発します。
- ・消費者と直接つながる木材・植物油脂の加工・販売を行う国内企業のうち、売上高上位各 3 社（計 6 社）の資源調達方針を調査し、チームの WEB サイトなどで公開します。

メディア CSR プロジェクト

長期目標

メディアが健全な民主主義の実現に貢献しうる公共性（メディア CSR）を果たすようにします。個人が持続可能な社会のために主体的にメディアを選択する社会にします。

短期目標

- ・民間テレビ局各社の報道姿勢およびコンプライアンス実態を調査し、ラウンドテーブルを実施します。
- ・メディア CSR 報告書が、主要な民間テレビ局から 1 社以上作成および公開されることを目指します。
- ・市民のメディアリテラシー向上に寄与し、主体的に情報を取捨選択する市民、「知る・伝える・提言する」市民を増やします。

実行手段

- ・民間テレビ局各社へのヒアリングを実施し、報道への姿勢や実態を知り、関係を深めます。
- ・民間テレビ局や視聴者など、複数のステイクホルダーを交えたラウンドテーブルを開催します。
- ・メディア CSR 報告書を作成・公開するよう、主要な民間テレビ局に市民・視聴者を代表して働きかけます。
- ・メディアリテラシーの意義と実践方法を伝えるコンテンツを制作し、市民向けのセミナーを開催します。

水源 WATCH！プロジェクト

長期目標

水を利用する利害関係者（ステイクホルダー）同士の情報共有を促すことによって、それぞれの責任（Social Responsibility）を明確にし、生命にとって必要不可欠な水源を持続可能に利用していくための管理・保全体制を構築します。

短期目標

- ・国内外の水源で起きている過剰取水や汚染などの問題を多くの市民に伝えます。
- ・水に対する消費者の意識や利用状況を調査し、その情報を分かりやすく公開します。
- ・調査結果をもとに、水を利用する利害関係者同士のコミュニケーションや情報共有を促進させます。

実行手段

- ・消費者の水利用状況について評価するチェックリストを作成し、プロジェクトの WEB サイトや facebook、およびブース出展を通して、500 名から回答を集めます。
- ・水源で起きている問題や水に関わる法整備、そして水に対する消費者の意識や利用状況について情報をプロジェクトの WEB サイトに適宜掲載し、facebook の「いいね！」および Twitter の「RT(リツイート)」のべ 500 名から集めます。
- ・日本の水源を訪れるスタディーツアーを開催し、現地住民と消費者による対話の場を設けます。

ケータイゴリラチーム

長期目標

「地球上の多様な生物の生きる権利が等しく尊重される社会」の実現を目指し、「ケータイ」と「ゴリラ」との関係にとどまらず、問題の根本解決に向けたたくみづくり・市民啓発活動を継続的に行います。

短期目標

- ・ 不要な携帯電話のリサイクル・リユースに取り組み、今ある資源の有効活用を行います。
- ・ 出張授業の機会を増やすなど、学生向けの啓発活動を強化します。
- ・ ワークショップなど、参加型の市民啓発活動を行います。
- ・ ゴリラへのより深い理解、現地 NGO との協働実現のため、アフリカへの現地調査を実施します。
- ・ 途上国への支援活動の可視化を目指し、より現地に貢献できるような体制を構築します。
- ・ リユースによって得られる収益をもとに、寄付金額を増加させます。
- ・ 現地の NGO と連携して支援活動を行うために、彼らとの話し合いの場を持ちます。
- ・ twitter やブログ、チームの WEB サイトを効果的に用いて、発信力の向上に努めます。

実行手段

- ・ 4 月のアースデイ東京 2012、5 月の J-WAVE FLEA MARKET in Roppongi Hills 2012 にてブース出展を実施します。
- ・ 10 月に青山学院短期大学への出張授業を実施します。
- ・ ブース出展の際に紙芝居などの参加型コンテンツを取り入れます。
- ・ WEB サイトやブログによる情報発信を継続的に行います。
- ・ 年度内に 100 回以上の情報発信を twitter などのツイートとして行います。
- ・ ブース出展の告知や、活動報告などを主な内容として年度内に 100 ツイート以上を行います。
- ・ チームの WEB サイトに動画コンテンツなどを盛り込み、より充実したものにします。

未来生活 now プロジェクト

長期目標

- ・経済の持続性を目的とする「資本系グリーンエコノミー」と、生命の持続可能性を目的とする「生命系グリーンエコノミー」に対話と調和を促すことで、「経済成長中心」から「生命のための経済」へ、モノ(資源)・カネ(金融)・情報(メディア)のしくみを変えます。
- ・「グリードエコノミー(不公正な経済)」に節度を求め、「生命系の経済(地産地消を基本とする有機農業を目指す、食・エネルギー・医療の地域での自給の在り方)」の主流化を実現します。環境やコミュニティを破壊する資源採掘をストップさせ、持続可能な形で資源利用が行われる社会を目指します。

短期目標

- ・2012年6月にブラジルで開催される国連持続可能な開発(以下、リオ+20)までに、システム提言とスタイル啓発を確立し、国内・ブラジル現地でアクションを行います。
- ・リオ+20 会議参加国・参加企業に対し、ロビーイングを行い、成果文書に影響を与えます。
- ・「未来生活 now」に参加する青年リーダー100名以上をネットワークして、生命系および資本系グリーンエコノミーの推進主体に対話と調和を促します。

実行手段

- ・年度内に提言・啓発ツールを公開し、配布・ダウンロードを含め2,000名以上の青年及び企業のCSR担当者へ届けます。
- ・ネットワーク関係にあるNGOキャンペーン(eシフト、エシカルケータイなど)の紹介を行います。
- ・「グリーンエコノミーに対話と調和を」をテーマとするブース出展を4回以上、フォーラムやセミナーを2回以上、トレーニング&勉強会を4回以上開催し、合計200名以上の参加を得ます。また、ブース出展等において「未来生活度チェック」を実施し、500名以上の参加を得ます。
- ・リオ+20に参加し、国内における啓発活動と連動した提言活動を行います。
- ・提言活動、啓発活動に関するレポートを作成し、公開します。

2012 年度理事・役員候補一覧

代表 / 理事

草刈良允 (慶應義塾大学大学院)
水源 WATCH! プロジェクト担当兼務

理事

羽仁カクタ (ごみゼロナビゲーションチーム、FLAT SPACE)
ごみゼロナビゲーションチーム担当

高木史織 (ごみゼロナビゲーションチーム)
ごみゼロナビゲーションチーム担当

梅本一成 (社会人)
エコ貯金プロジェクト担当

鈴木秀和 (友だちひろばなゆた)
メディア CSR プロジェクト担当

木村真理子 (ごみゼロナビゲーションチーム)
ケータイゴリラチーム担当

鈴木亮 (SuzuMedia 主宰)
未来生活 now プロジェクト担当

岸田ほたる (A SEED JAPAN 事務局長)
つながりの森を未来へプロジェクト担当

監事

田辺有輝 (特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター)